

第3回噴火湾ホタテガイ情報(2014年) 発行日:平成26年5月12日

発行: 函館水産試験場・栽培水産試験場・釧路水産試験場、協力: 胆振・渡島北部・渡島地区水産技術普及指導所

湾内外のホタテガイラーバは4月調査時に比べて増加していますが、多い点でも125個/トッと昨年より少なく、160 μ m以下の小型なものが主体となっています。本格的なラーバの増加は来週以降になると考えられます。10m深の水温は湾内で7~8 $^{\circ}$ Cと昨年並みまで上昇していますが、湾外は4~6 $^{\circ}$ Cと湾内に比べて2~3 $^{\circ}$ C低い状態です。

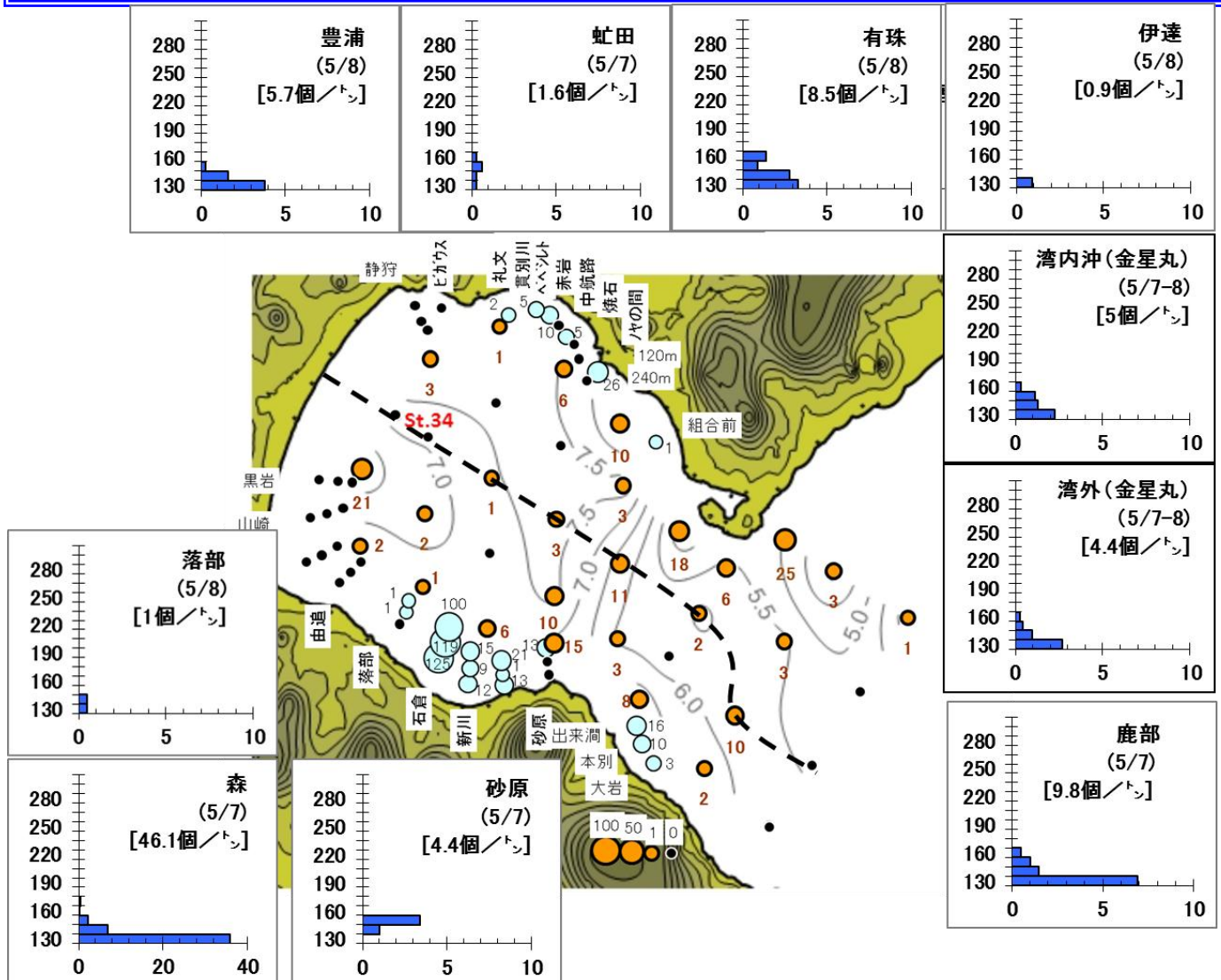


図1. ホタテガイラーバの分布状況と各地区におけるラーバ殻長(μ m)の組成(2014年5月7~8日)
丸の大きさと下部の添付数字はラーバ密度(個/トッ)、オレンジは金星丸調査結果、水色は各地区指導所調査結果、灰色曲線と数字は10m深における等水温線と水温($^{\circ}$ C)。

【概要】5月7~8日に、函館水産試験場(試験調査船金星丸)及び、各地区水産技術普及指導所により、噴火湾のホタテガイラーバ及び環境調査が行なわれました。前回調査(4月21~22日)に比べて湾内外でのラーバの数は全体的に増えており、特に森から砂原にかけて多くなっています。しかし、石倉沖の最も多い点でも125個/トッとまだ昨年に比べて少ない状態です。また、ラーバの大きさも160 μ m以下の小型なものが主体となっています。

4月下旬~5月上旬には各地区水産技術普及指導所の調査で母貝生殖巣指数の低下が報告されており、産卵が進んでいるようです。今後、湾内のラーバは本格的に増加すると考えられます。

今後の産卵状況や沿岸域のラーバ出現状況については各地区水産技術普及指導所の「ホタテガイ採苗情報」も参照してください。次回の全湾のラーバ及び環境調査は、5月21~22日に実施する予定です。

(連絡先: 函館水産試験場 佐藤・吉田・金森・渡野邊 TEL:0138-57-6074)

この情報は函館水試のホームページからもご覧いただけます。 <http://www.fishexp.hro.or.jp/cont/hakodate/>

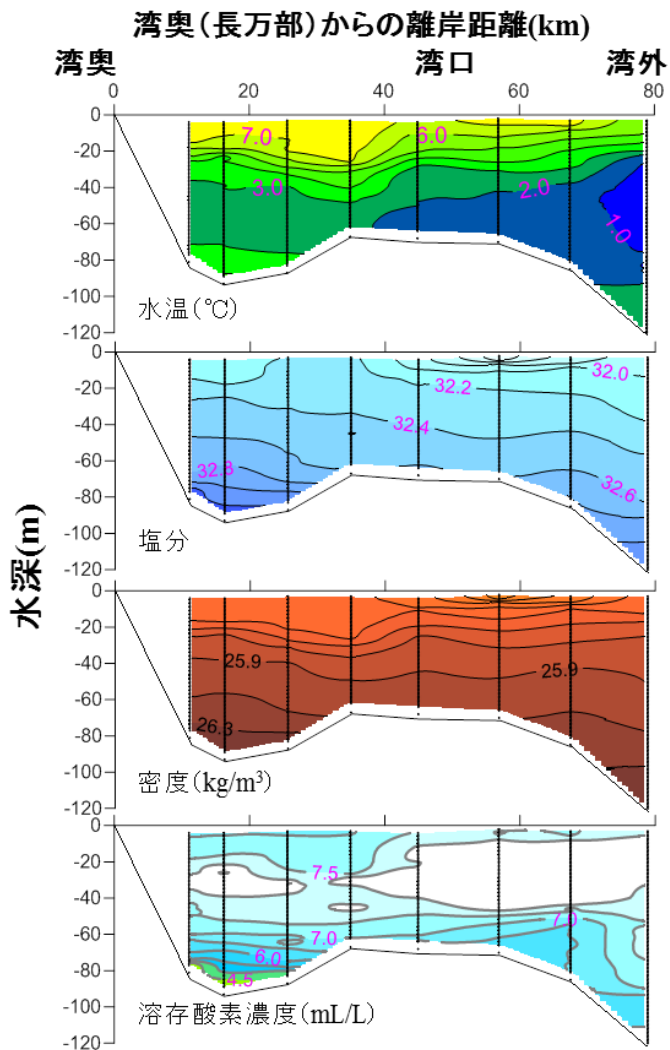


図2. 噴火湾縦断面の環境変量分布
(位置は図1の破線部)

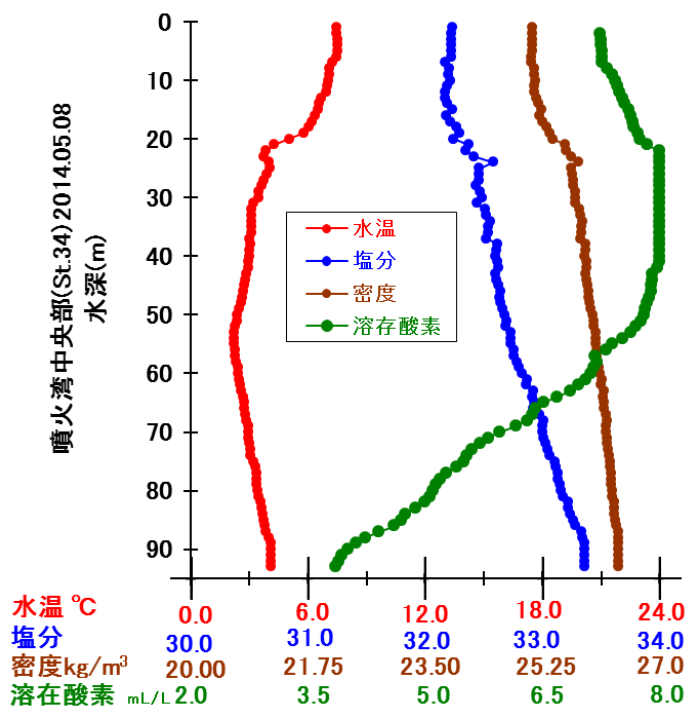


図3. 最深地点 (St.34) における
水温・塩分・密度・溶存酸素の鉛直分布
位置は図1を参照

【環境情報】

湾内の20m以浅は気温の上昇に伴い、水温6~8°Cと平年並みまで上昇していますが、20m以深の水温は2~6°Cと依然低い状態が続いています(図2)。さらに湾内に比べて湾外の水温が低い状態です。これらの冷水が湾内の表層に流入することで、今後一時的に水温が低下する可能性があります。

湾内の20m以浅の塩分は32.3~32.5と平年並みです(図2)。湾内はまだ本格的な雪解け水の影響は受けていませんが、今後、河川流量の増加によって低塩分化すると考えられます。

溶存酸素濃度はホタテガイの垂下水深帯(海面~30m)で7.0~8.0mL/Lと、十分に酸素が供給されている状態です(図2、3)。湾内最深部の海底付近は溶存酸素濃度が4.0mL/L(飽和度52%)とやや低い状態ですが、貧酸素状態には至っていません(貧酸素の目安は2~3mL/L)(図3)。